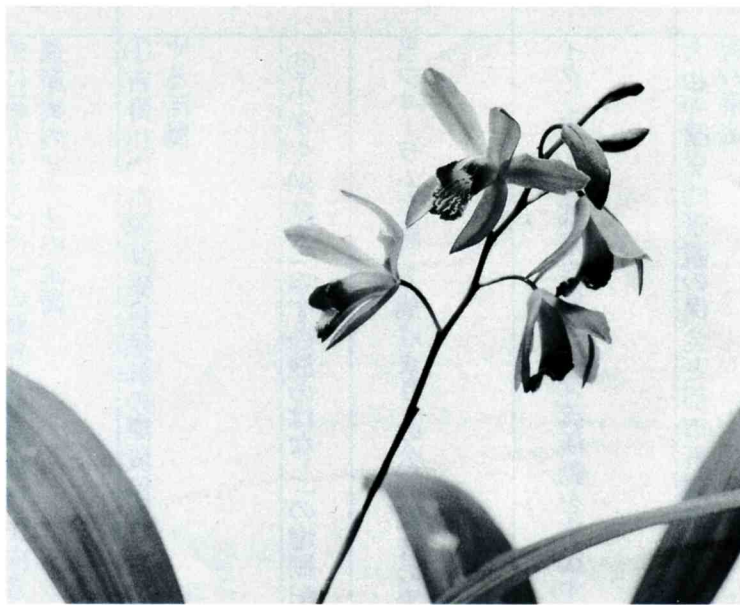


Non Profit Organization
NARA FORUM21

naraなら



会員各位に訴える

NPO事業に全員参画しよう

NPO奈良21世紀フォーラム
理事長 石橋 毅一

奈良21世紀フォーラムは、NPO法人として発足してから4年目を迎えました。出口なしの閉塞状況が13年も続いた日本経済にも、ようやく昨年あたりから景気回復のきざしが見えてきましたが、この春の日差しは300万人に達する失業者、年間3万人を超す自殺者内、1万人は倒産・解雇によるもの上に出現したものです。こうした過酷な経済情勢のなか、会員各位がふるさとの大地に踏みとどまり、フォーラムをさまざまな形で支持して頂いていることに感動を禁じ得ません。

今回の景気回復の原動力は、「新・三種の神器」と称される薄型テレビ・DVD・デジタルカメラの好調な売れ行きによるもので、いずれも最新IT通信技術を駆使した情報機器商品です。

かつて高度成長期に私たちが手にしたものは、電気洗濯機・掃除機・冷蔵庫そして故障の少ないクルマなどいわばヒトの手足の延長線上の働きをする製品群でした。

ところが、今回のものは、ヒトのからだに例えると、頭脳や神経の役割を果たします。ようやく、私たちは「工業社会」を離脱、「情報社会」「知識社会」を迎えたいのです。

「工業社会」は、人々を飢餓から開放し、便利な暮らしと余暇をもたらしました。一方で自然を破壊し、人々を支えてきた「地域共同体」と高齢者・子ども・障害者を守ってきた「家族」をバラバラに分解しました。道を横切るのに命をかけることもたち—安心して子どもを預けられない保育所や学校—院内感染が避けられない医療施設—人間の尊厳が守られない養護老人ホーム……。

今こそ私たちは、胸に秘めた無償の愛を、ふるさと奈良—大和の再生に役立てよう。会員各位におかれては、次のページに掲げる事業の中から、お好きな項目を選んで、プロジェクトチームに参加し、事業を推進して頂きたいと思えます。

このように訴えるのは、人は誰でも、ふるさとに対し、あふれんばかりの想いを抱いていると信じるからであります。

奈良ブランドを広めよう 「世界遺産アーカイブ構想」

奈良21世紀フォーラムは、一昨年より、国内そして世界の人に奈良の世界遺産の魅力を知ってもらい、そして奈良に長く滞在してもらおうと世界遺産アーカイブ構想を企画し、討議を重ねてきた。

平成17年度に向けて、我が国を世界のIT先進国にするため、全国的に色々なデジタルアーカイブが構築されつつある。また、小泉総理は国会で、日本を訪れる外国人旅行者は平成22年に倍増させることを目標すると演説した。

二つの施策の実現に向けて、さまざまな国や市町村の施策、NPOの活動が現在進行中である。

今が文化資産の宝庫である奈良の観光事業を一層、活性化する絶好のチャンスである。

当フォーラムは奈良県に張り巡らされた光ネットワーク(超高速ネットワーク)を利用し、奈良県の色々なデジタルアーカイブをネットワークし、それらを纏め、奈良伝統文化情報を総合的に利用できるデジタルアーカイブセンターを構築して、奈良のブランド力向上と参加・体験・学習型観光事業すなわちIT環境に根ざした情報型観光事業に貢献

したいと考えている。

《デジタルアーカイブ》

アーカイブは公的記録保管所。デジタルアーカイブは

デジタル技術やネットワーク技術などを駆使して、過去および現在における様々な知的財産を「創造的に継承」し、「多角的に利用」することを可能にするシステム・社会基盤の総称。

《ポータルサイト》

インターネットの文化遺産情報の入り口となる文化遺産広場

《デジタルアーカイブセンター構想》

デジタルアーカイブセンターは、ポータルサイトと映像ライブラリーで構成される。

(I)ポータルサイトは、まず当フォーラムのホームページを開いて頂くと、画像付き目次が現れ、その目次を選択することにより、文化情報施設に分散蓄積されている世界遺産・伝統文化資産のデジタルコンテンツや世界文化遺産の四季折々の様子を常時配信できるインターネットカメラの映像の中から所望のコンテンツを取得、表示してくれる。ポータルサイトとはこのような機能

を備えているものである。

これは観光客にとって魅力的なホームページであり、アクセス回数が飛躍的に向上し、奈良ブランドの発信の場(e・ブランドング戦略構築の場)と成りうるものである。

これは観光客に奈良を観光する準備をさせるよい刺激となる。

(II)映像ライブラリーは奈良全域の世界遺産と奈良町などの伝統文化資産を学習するため、歴史文化学習の場である。そのため世界遺産都市の玄関口(平城宮・朱雀門付近)に置きたいものである。

次のような学習ができる。

- ①最新の発掘成果と新しい研究方法による成果を踏まえ、新しい視点にたった奈良の世界遺産を大画面の高精細映像で紹介し、世界遺産に対する理解が深まるようにする。
- ②修学旅行生等の観光客が世界遺産都市平城京の精神・文化資産を学習し、見学・学習ルートを選択する。
- ③見学アルバムや学習成果の報告書を制作する。

結果、世界遺産都市平城京の精神・文化を次世代に伝え、コンテンツの発表の場として活用され、コンテンツ産業の創出に生かされる。ここに世界遺産アーカイブ構想を実現する。



轆轤チャリティー

3月24～28日、奈良市立美術館で、陶芸教室土工房「轆轤(ろくろ)」の会員が制作した壺・花瓶・茶碗・皿などの作品展示会が開催された。

「轆轤」主宰者の陶芸作家、古野幸治氏と会員の皆様のご協力により提供を受けた多くの陶芸作品をチャリティー即売し、前回同様売上金の全額(262,400円)を川上村水源地の森保全事業に、寄付した。



